

常磐文藝

墓

白くぬられた墓よ
秘密を語れ
今は汝の上にかぶさつて
ぬた
鮮やかな緑色の木の葉も
散つて
紅の美つくしい花も凋ん
でゐる
おそろしい青空と沈黙と
は
河の上にひろがつて
餘りに美つくしかつた處
女
餘りに愛らしかつた處女
彼女を永久に埋めてゐる
墓よ
私は汝のおそろしい秘密
の前には

募集 文藝其他一般
投稿を歓迎します

顔色がない
併し彼女が生前の面影は
亡霊の様に私の前に立つ
のである
墓よ
永却の美を
永却の愛を
がい骨と様々のけがれと
に代へる
汝の秘密よ
併し私は智慧と幻想の翼
をかりて
汝の上を起つてとよ

△土地建物

賣買并ニ是ニ關ス
ル萬般ノ御相談ニ
應ズ

△床板、床縁
落掛

澤山新荷着
◎大谷石 本場一等
品寸法御望次第

磐城建物
株式會社

平町五丁目
電話五一八番

看護婦派出
の求めに應ず

平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

毒氣ある身體にて
た困りの御方は
毒退丸の効能を
試みられよ!!
効能としては梅毒、痔病
胎毒、淋病、消渴、痲
質斯等凡て毒氣ある身體
に特效あり
石城郡内郷村小島
毒退丸販賣本舖
山下重愛堂
☐其他全國到處
に特約店あり

社告

初冬の候彌々御清祥奉賀上候陳者今
回正喜社と稱する廣告取次業を創業
弊社關係の廣告掲載に關し貴意を得
たるやに仄端致し候處右は弊社と絶
對關係無之且つ正喜社經由の廣告は
一切掲載致さず候に付右に御諒知の
上倍舊の御後援賜はり度懇願候也
尙ほ正喜社は弊社以外各新聞の諒解を得たる旨
宣傳致し居り候趣に御座候へ共報知、東京日々
東京朝日、時事、國民の各東京新聞社支局等も
全々同社とは關係なきのみか協定したる覺えな
しとの事に候間此段念の爲め併せて御諒解願上
候

いわき新報社

磐城日々新聞社

磐城新聞社

常磐毎日新聞社

いはらき 福島民報 福
島民友 福島新聞 平支局

製材機械、人魚印丸鋸

自動注油メタル、ブリーリー在庫
ゴムベルト、バラタヘルト

佐藤鐵工所

平町月見町
電話三六二番

霞ヶ浦名産
焼ワカサギ
大海老

賣初めまじら
白魚ワカサギの
生ものも注文に應じます
平町二丁目
平館前 笹目分店

株式賣買中値

Table with 2 columns: Company Name and Price. Includes entries like 磐城銀行 (500), 平銀行 (500), 磐越銀行 (125), etc.

丸登株式會社

平町町電話三三三番
川添房二郎



二十八年八月八日夕刊

價定
一部金貳錢 月極
ニ限リ一ヶ月卅錢
料告廣
五號十三字詰
一行五十錢
日刊休 日曜 大祭
祝日の翌日
所刷印 福島縣石城郡平町
磐城新聞社印刷部
編輯兼 川崎文治
印刷人
發行所 石城郡平町
所行發 福島縣石城郡平町
字長橋町川五番地
常磐毎日新聞社

新聞製作者
の川崎君(一)

正面より見たる川崎君
開は既に極めて正鵠を得た
る宮田山田兩氏の論評品隣
によつて殆ど遺憾なき迄に
悉くされて居るから余はこ
の際前二氏と異なる所に立脚
し親友川崎君に對する所謂
側面觀察を試みやうと思ふ
蓋し這箇の側面觀察は氏が
一箇の新聞記者として且に
於て果して幾千の厚さ(う)
を有するかを觀取し得ると

同時に質に於て如何に洗練
彫琢を経たものであるかに
就て一箇の綜合的斷面を直
視し得る利便あるを信する
からである。而も永らく同
業者中の親友として終始一
貫敢て論る事なき交情を續
けて居る余が之種の云爲を
試みんとするは豈敢て必ず
しも借越の妄評ではあるま
いと思ふ。
所謂「新聞格」に
對する氏の自信
現在の川崎君を目するに
余は一箇の記者とせんより
は寧ろ一新聞の編輯者(同
時に經營者ではあるが)と
することによつてその目標

を愆らさるものと思ふ、而
して新聞の編輯者たる川崎
君が日毎そのしごとに従事
するに方り果して如何なる
自信と云はんよりは寧ろ新
聞製作者としての矜誇を持
つてあるかと思ふ時その
注意の織細周到なる吾人を
して眞に涙ぐましい迄の共
鳴を敢てせしむるものある
を思はざるを得ない。即ち
余は次に二三の例設を擧げ
川崎君の所謂新聞觀なるも
のを論評して見度と思ふ
蓋し新聞記者乃至編輯者な
るもの、所謂新聞觀はその
人間の全人格を計量する尺
度に外ならぬと信するから

常磐地方の... 炭礦主が値上の協議

諸掛りが漸騰したのに 採炭能力低下した爲め
一定せしめたい」といふの
でこれ等の
事情から 来る十五日
より粉炭塊炭ともに炭價を
引上げることに近づく具
体的に發表の筈である

石城郡の 産業 組合長 會議

石城郡産業組合長會議は十
七日午前十時より郡議事堂
にて開き左記事項を附議す
る由

(指示事項) 組合員訓練に
關する件、組合の規模擴
張に關する件、組合組織
變更に關する件、貯金吸
集に關する件、購買事業
に關する件、(注意事項)
産業組合中央會加入の件
、保證責任本縣信用組合
聯合會加入の件、通常總
會開會準備の件

水道栓を保護せよと

結氷期に入つた爲め... 平水道部の注意
平水道部にては冬期に入
つて水道鉛管又は水栓等結
氷の爲め破裂或は故障の頻
發する爲め水道保護の注意
書を近く一般に配附する筈
であるが手當の方法は左の
如くである
△溝渠架越は軟かき薬を能
く密着する様巻付更にコ
モ又は泥等を巻き固く結
束し可成雨水等の浸透せ
ざる設備を良とす
△屋内にて鉛管を露出し居
る所は軟かき薬を巻くを
良しとす雖も場所によ
り薬を使ひ得ざる時は毛
布又は綿布等を成るべく
多く巻き置く事

常磐片々

寒くなつたから水道栓に着
物を着せろと役場からのた
達し
序でに俺れにも着せろ、ナ
ンテ云つたら貧棒人の面よ
こしだ
白煉瓦工場は汽車の飛火
こうなると残る煙りが癪の
種だ
常磐炭礦組合で炭價値上げ
を決議す

△水栓は日々使用済の後には
清潔なる毛布又は綿布等
を以て包み置くを良しと
す若し結氷して握把の旋
廻せざる時は熱湯を注ぎ
更に熱湯に浸したる綿布
等を以て包み置き徐々
に旋廻せざれば折損の懼
あるを以て注意する事
△私設共用栓は水栓柱を薬
又は漆を多量に巻き
固く結束し給水栓には夜
間使用済後は毛布等にて
包み包み結氷を防ぐこと
に努むること
△前年結氷し出水せざる場
合之を融解せんが爲め直
接炭火を用ひ多大の損害
を招きたる者あり結氷に
對しては何處の部分にて
も直接火に當てる事は却
て悪しき故注意すること

脱線轉覆

古河炭礦にて
昨日午後四時半頃石城郡好
間村古河炭礦第四坑下専用
鐵道の貨車入替場に於て折
柄疾走し來つた機關車が脱
線轉覆したが幸ひ人蓋に異
狀なく原因はボイラの誤り
からであると

品川白煉瓦の 原因判明

過般品川白煉瓦工場から
炎に關しては出火原因調査
中の處當時平野から原の町
驛に向つて發車運轉中であ
つた貨物列車九百一號の機

平消防組の 摸擬火災

日から開始するが其經費豫
算は千五百圓五十錢であつ
て内九百卅五圓は小頭以下
消防手延人員千百人に對す
る手當である
平消防組の
摸擬火災
非常召集を行つて
伍長其他任命
平消防組にては明九日未明
非常召集を行へ摸擬火災其
他非常時に對する演習を爲
す筈であるが本日第一部消
防手宮初吉氏は伍長に昇進
し左記の諸氏は消防手に任
命された

關車から飛火したものと判
明し相馬郡大壺村大字北原
機關手小河衛(二七)同郡原
町大字上瀧谷字前屋敷
助手井上留三
名は失火罪として本日書類
檢事局に送られた
三人が

注意を欠いて 死傷者を出す

石城郡磐崎村大字上湯長谷
字梅平軌道夫遠藤久治右衛
門(二三)同線路工夫小林長
優(四五)は本年十月廿五日
午前九時頃湯本機關庫構内
で互に注意を欠いた結果ト
ロの齒止め棒に障害を來た
し目的の場所に停止せず本
線内に停車してゐた客トロ
に衝突し折柄乗車中の前田

眞性慾の問題

一見區別のつかないものからいつの間にか男と女とが
分れて來る、順當に行けば卵巢の出來た身体へは之れ
と伴ふて子宮や膣が出來て來るし、零丸の頭はれた
方へ必ず同時に男性器官が發展して來るのである。其
の不思議な製作の進行中に、フド造物主の意思の錯誤
が起つたとしたら、卵巢へ男
根が添へられるやうな悲劇が
出來しても已むを得ない。女性
の標徴の第二は乳房である、女
性の乳房は著しく發達して大き
いが、男子の乳房は僅に痕跡を
留むるに過ぎない、一定度以上
の發育をした婦人の胸を見て男
の區別がつかぬといふやうな
事は絶対にない、女性の乳房は云はば第二の子宮であ
る。子宮が胎盤によつて胎兒を養つた如くに、乳房は
胎を離れた嬰兒を哺育する仕事を持つて居る、女子が
稍熟して月經が潮する頃になれば、乳房も又伴つて其
準備を急ぐ、熟した果實の如く美しい乳房は生命の泉
を醸して居るのである (續)

まつを死に至らしめ吉田さ
み、吉田みいに重傷を負は
せ過失致死罪として平署島
川署に取調へ中

不平受付

平局のポスト 平郵便局
の郵便物差入口をモット明
確に表示して頂きたい先夜
も一人の商人風の方がハガ
キを持つて局の表をウロ
／＼して居たので自分が教
へて上げた實例があります
(無名氏)
▼森郵便局長の答... 御
注意有難う、差入口は局
を這入るとスグ正面にあ
るのですが混雑の場合等
には一寸解り兼ねる人も
ありませうから考へて見
ます

四倉校増築

四萬圓を投じ
石城郡四倉町小學校にては
學校裏舊墓地三百坪に二階
建八學級一棟を増設する事
となつたが經費は約四萬圓
である
小管榮之助 小野定吉
眞田友春 小川勿來磨阿
章 關内米太郎 綠部川
恒吉 猪狩六平 増子富
次 菅田榮之助 狩谷佐
神谷兼次郎 松本貞雄
大谷傳長 稻島昌鈴木
唯雄 藤田規 佐藤辰四
郎 高萩高三郎 四家當
雄 喜田八百

遺言の寄附金

前八時から体操會を開き原
田校長の開辭にいて諸種大
の体操試み觀衆を喜ばせた
遺言の寄附金 石城郡
夏井村會議員大友新作氏死
去せるため遺言に基き小學
校へ五十圓、消防組へ卅圓
青年團へ廿圓、夫々基本金
中へ寄附したと
平町 人事
▲出生
△仲間町 吉田良彌長男金
廣
▲婚姻
△材木町 二瓶嘉吉(二八)
紺屋町 高木ナル(二四)